



学校だより 3月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和5年2月28日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

体験を生かす

校長 寺園 淳

正門の脇に咲く白梅が一足早く春の訪れを告げています。先日、集会委員会が取り組む今年度最後の全校集会が開かれました。活動はすり抜け鬼です。全校が紅白に分かれ、イチヨウの樹側のスタートラインからマツの樹側のゴールまで紅白球を運びます。簡単にゴールさせないように1年生から6年生までがそれぞれ横一列にラインをつくり、相手の進路を邪魔します。攻めるとき、1・2年生のラインは比較的容易に突破できますが、3年生以上になるとなかなかそうはいきません。すると、私のそばで見学していた子どもたちから「3年生は、体育の授業ですり抜けしっぽ取り鬼を勉強しているから上手だよ。」という声が聞こえてきました。その言葉を聞いた私は嬉しい気持ちになりました。子どもなりに学習したことが生かされていることを実感していたからです。また司会を務めていた5年生の富居 裕雅さんは2回目のスタートの合図をするときにカウントダウンを付け加えました。ざわついた様子でスタートを待っていた子どもたちが、さっと集中しました。後で富居さんに聞いたところ、初めから予定していた台詞ではなく、その場の様子を見て自分で考えたとのこと。この言葉にますます私は嬉しくなりました。

横浜市教育委員会は、「教育を科学」することで子どもの学びの質の向上を図る研究に取り組んでいます。認知能力と非認知能力の関心に着目し、研究を進めています。その研究では、学力と自己肯定感や意欲との関係性は、学力が高い子どもは自己肯定感や意欲も高くなっているそうです。さらに自己肯定感や意欲の高さと学校行事が関係している傾向もみられるそうです。石川小の子どもたちには学校行事に前向きに取り組む、楽しんでいる姿が見られます。今月の学校だよりにある横浜市学力・学習状況調査の報告に示すように、学びに向かう姿勢が昨年度より学校全体として高まっている結果が見られます。このことから学校行事や体験学習など特色ある教育活動を大切にしたい学校運営を進めていきます。来年度迎える創立150周年を祝う様々な取組を子どもの学びの場として生かしてまいります。

3月に入ると6年生は卒業に向けて、小学校生活のまとめに入ります。さらに、私は子どもたちが卒業式を「小学校生活最後の授業」としてとらえ、学んでくれることを期待しています。また、今年度から以前のように4・5年生も卒業式に参加します。卒業生一人ひとりが、6年間に培った力を背中で見せる姿から、来年度の石川小学校のリーダーとして4・5年生にはしっかりと学んでほしいです。

本年度も残すところ一か月となりました。保護者の皆様、地域の皆様には子どもたちのためにご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。教職員一同、本年度のまとめに向け、力を注いでまいります。よろしくお願いいたします。